

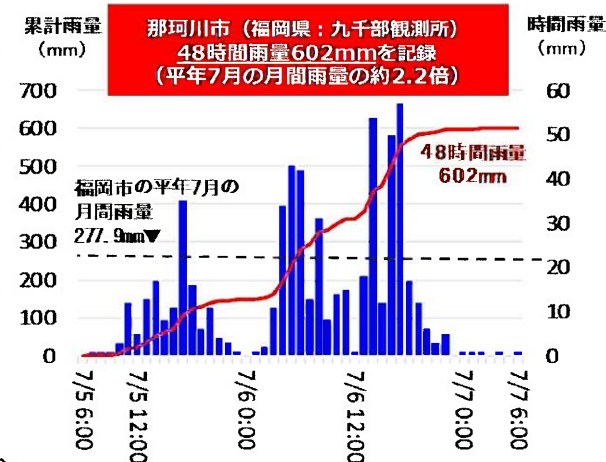
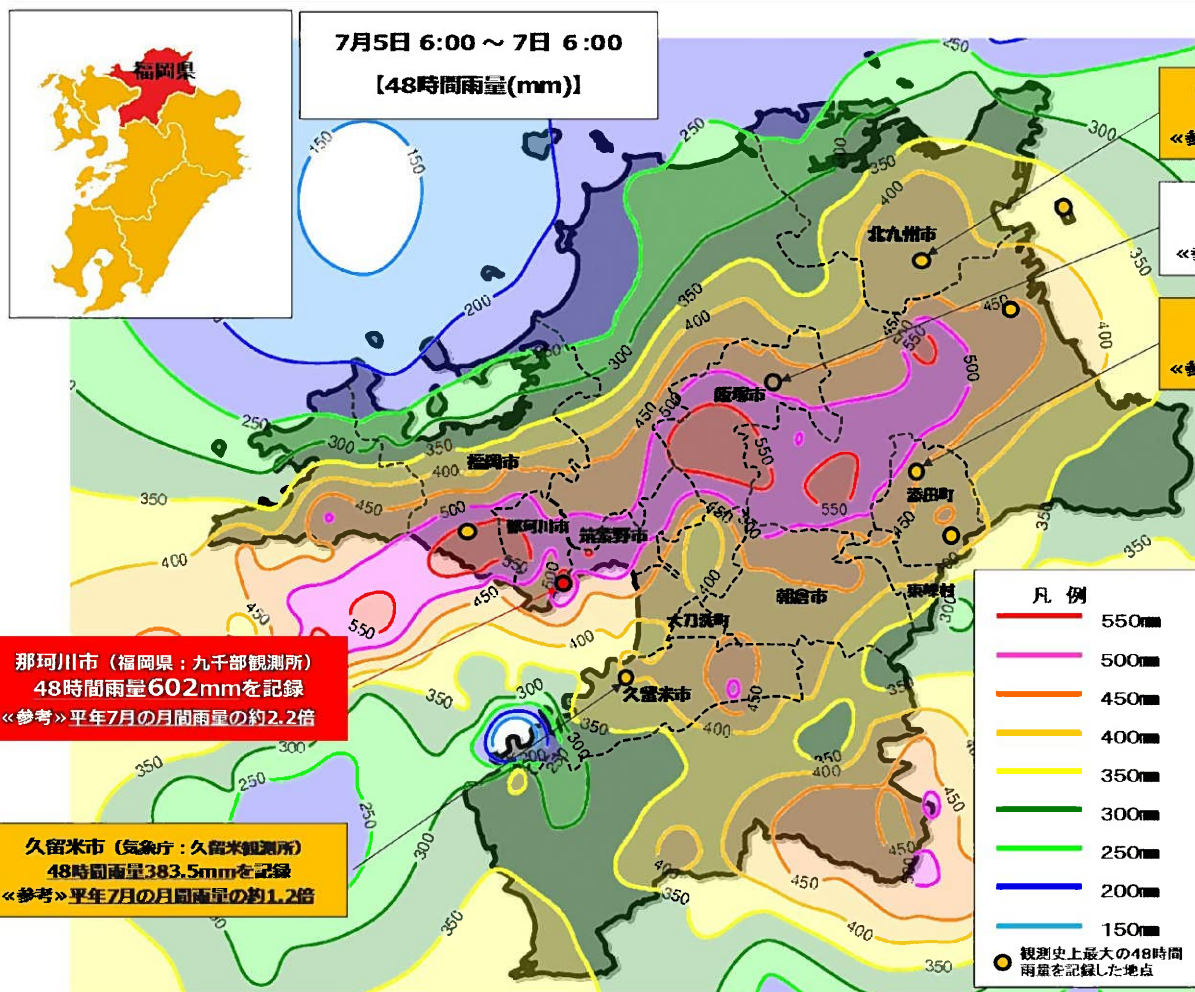
平成30年7月豪雨について

平成31年2月5日

豊前・行橋水防地方本部圏域 大規模氾濫減災協議会

平成30年7月豪雨について【降雨状況】

- 7月5日朝から7日朝にかけて、県内の広い範囲で記録的豪雨が降り続いた
⇒ 福岡県に「50年に1度」の異常気象を基準とする「大雨特別警報」を発表(気象庁)
- 那珂川市で602mmを観測したのをはじめ、北九州市、久留米市など気象庁の県内20観測地点のうち、7地点で48時間雨量の観測史上最大を記録
⇒ 多くの地域で、平年7月の月間雨量を上回る雨量を確認



《過去の豪雨との比較》

	主な被災地域	累加雨量		最大時間雨量
今回の豪雨	県内の広い範囲	602mm	48h	74mm/h
平成29年7月九州北部豪雨	朝倉市・東峰村	894mm (774mm)	54h (9h)	124mm/h
平成24年7月九州北部豪雨	八女市・柳川市 朝倉市	681mm	72h	94mm/h
平成21年7月中国・九州北部豪雨	那珂川市・福岡市 北九州市・飯塚市 直方市	618mm	59h	116mm/h
平成15年7月梅雨前線豪雨	福岡市・太宰府市 志免町・宇美町	386mm	74h	104mm/h
平成11年6月福岡豪雨	福岡市・大野城市	693mm	11日間の期間雨量	100mm/h

※速報のとおりまとめ資料であり、今後の分析により更新することがあります。

平成30年7月豪雨について【被害状況】

○ 主な被害状況

区分	人数(件数)	内 訳
死者	4名	○ 死者4名 (北九州市2名、福岡市1名、筑紫野市1名)
家屋被害	3,669件	<p>【住家】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○全壊15件 (北九州市10件、嘉麻市2件、その他3市町で3件) ○半壊222件 (飯塚市188件、北九州市10件、その他8市町で24件) ○一部損壊173件(北九州市118件、福岡市18件、その他9市町で37件) ○床上浸水952件 (久留米市423件、飯塚市261件、北九州市131件、その他12市町で137件) ○床下浸水2,294件 (久留米市1,011件、小郡市342件、飯塚市319件、その他35市町村で622件) <p>【非住家】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○その他13件 (嘉麻市3件、その他5市町で10件)

※件数は各自治体からの報告数を集計したもの

※ 平成30年8月31日時点把握分

○ 避難状況

区分	人数	内 訳
実避難者	16,109名	○北九州市2,096名、朝倉市2,005名、飯塚市1,939名、久留米市1,145名、福岡市798名、太宰府632名、その他45市町村で7,494名

※ 避難者数最大時(平成30年7月7日時点)

平成30年7月豪雨について【被害状況】

○ 公共施設被害状況

	平成30年7月 豪雨 被害額	《参考》 平成29年7月 九州北部豪雨 被害額	《参考》 平成24年7月 九州北部豪雨 被害額
県	138億円	923 億円	173 億円
市町村	67億円	177 億円	172 億円
計	203億円	1,100 億円	345 億円

※ 平成30年8月31日時点把握分

※ 四捨五入の関係で各項目と合計額が合わないことがある

《過去の豪雨との比較》

	主な被災地域	公共施設被害額	主な人的被害	主な家屋被害
平成30年7月豪雨	県内の広い範囲	203億円	死者4名	全壊・半壊 237件 床上・床下浸水 3,246件
平成29年7月 九州北部豪雨	朝倉市・東峰村	1,100 億円	死者37名 行方不明者2名	全壊・半壊 1,109件 床上・床下浸水 620件
平成24年7月 九州北部豪雨	八女市・柳川市 朝倉市	345 億円	死者5名	全壊・半壊 510件 床上・床下浸水 6,222件
平成21年7月 中国・九州北部豪雨	那珂川市・福岡市 北九州市・飯塚市 直方市	63 億円	死者10名	全壊・半壊 24件 床上・床下浸水 5,476件
平成15年7月 梅雨前線豪雨	福岡市・太宰府市 志免町・宇美町	99 億円	死者1名	全壊・半壊 82件 床上・床下浸水 6,961件
平成11年6月 福岡豪雨	福岡市・大野城市	50 億円	死者2名	全壊・半壊 13件 床上・床下浸水 6,163件

平成30年7月豪雨について【被災状況】

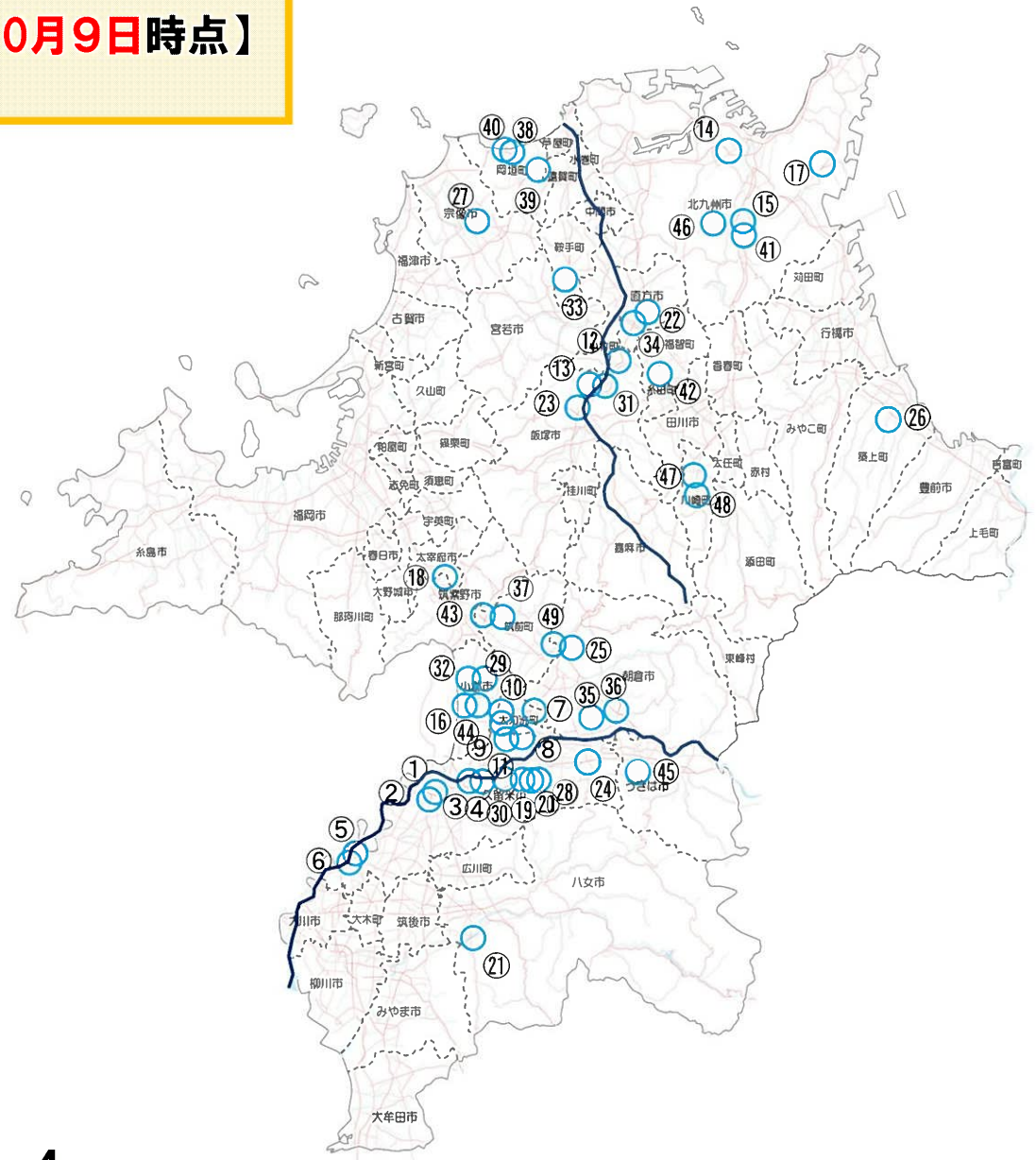
(凡例)

○ 溢水、越水河川 **49**河川（山ノ井川など）【※10月9日時点】
7月8日11時頃までに全ての浸水が解消

番号	河川名	家屋浸水		
		床上 (戸)	床下 (戸)	合計 (戸)
①	イケマチガワ 池町川	369	612	981
②	カナマルガワ 金丸川	池町川の被害に含まれる		
③	シモユゲガワ 下弓削川	304	1059	1363
④	エガワ 江川	下弓削川の被害に含まれる		
⑤	ヤマノイガワ 山ノ井川	36	269	305
⑥	ウダスミガワ 宇田貫川	山ノ井川の被害に含まれる		
⑦	シヤカガワ 陣屋川	12	571	583
⑧	イケダガワ 池田川	陣屋川の被害に含まれる		
⑨	オホアライガワ 大刀洗川	1	54	55
⑩	テラカワ 寺川	大刀洗川の被害に含まれる		
⑪	コイケガワ 小池川	大刀洗川の被害に含まれる		
⑫	ショウナイガワ 庄内川	138	33	171
⑬	ショウシカワ 庄司川	152	265	417
⑭	イタバツカワ 板櫃川	-	30	30
⑮	ムラサキガワ 紫川	-	9	9
⑯	チヂカワ 築地川	49	217	266
⑰	アイワリガワ 相割川	-	100	100
⑱	タカオガワ 高尾川	25	19	44
⑲	ポウガワ 不動川	16	86	102
⑳	フジマタガワ 藤野川	不動川の被害に含まれる		
㉑	オオクラタニガワ 大倉谷川	3	16	19
㉒	フクチガワ 福地川	10	17	27
㉓	ケンガイシガワ 建花寺川	94	5	99
㉔	コノキガワ 巨瀬川	4	21	25
㉕	コイシワラガワ 小石原川	-	7	7

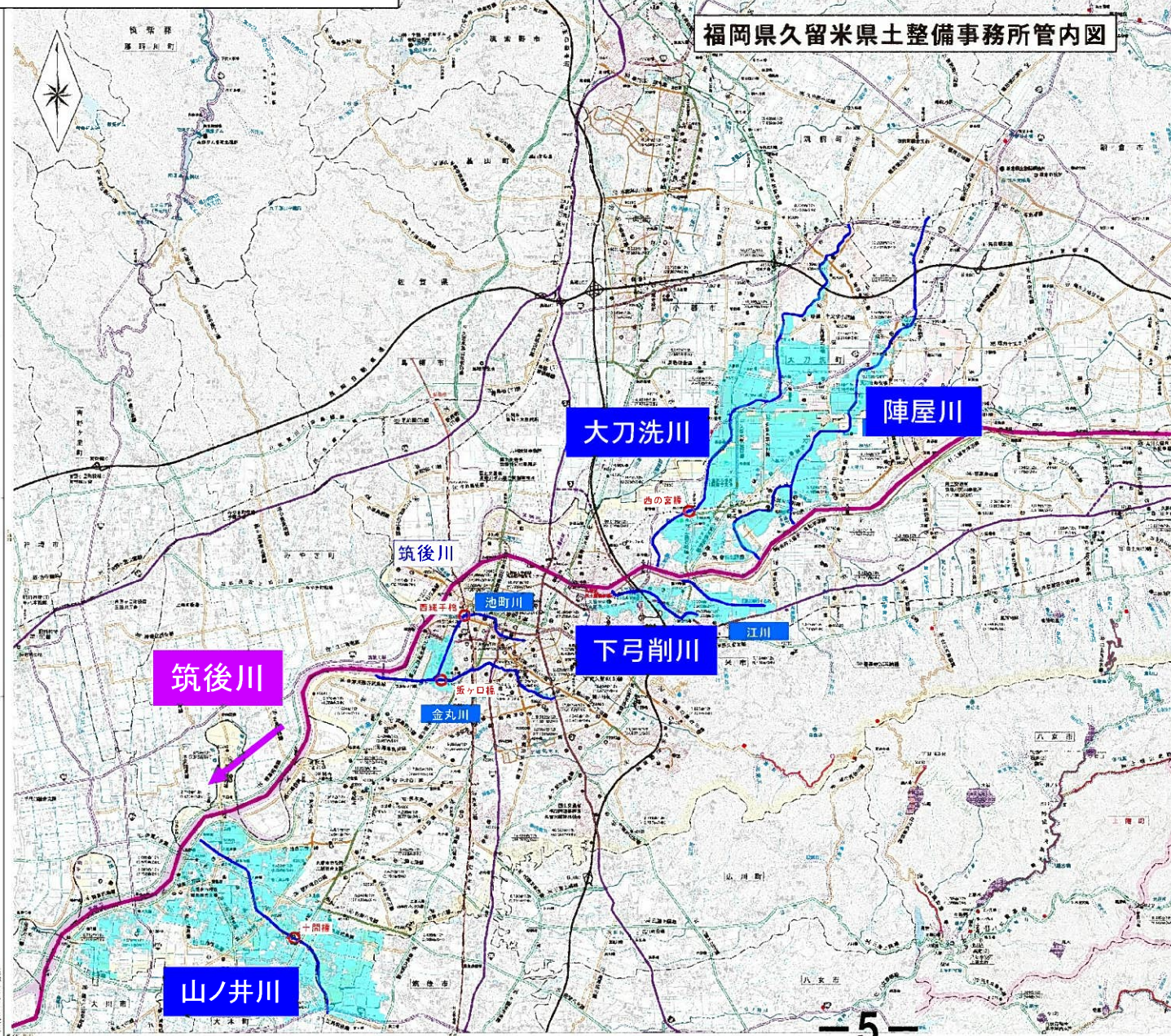
番号	河川名	家屋浸水		
		床上 (戸)	床下 (戸)	合計 (戸)
㉖	コヤマダガワ 小山田川	-	1	1
㉗	ヤマダガワ 山田川	-	1	1
㉘	サンコウガワ 三光川	不動川の被害に含まれる		
㉙	クハシガワ 口無川	-	5	5
㉚	オオタニガワ 大谷川	不動川の被害に含まれる		
㉛	シイキガワ 椎の木川	調査中		
㉜	タカハラガワ 高原川			
㉝	シヅカガワ 西川			
㉞	カワハタガワ 川端川			
㉟	カヅカガワ 桂川			
㊱	シンタテガワ 新立川			
㊲	ソネダガワ 曾根田川			
㊳	ノマガワ 野間川			
㊴	ヤハギガワ 矢筈川			
㊵	シノマガワ 篠間川			
㊶	ヒガシタニカワ 東谷川			
㊷	タニガワ 湊川			
㊸	ヤマノイガワ 山家川			
㊹	ホウマンガワ 宝満川			
㊺	ヤマノダニガワ 山曾谷川			
㊻	オオマカワ 合馬川			
㊼	チュウガンジガワ 中元寺川			
㊽	アサカガワ 安宅川			
㊾	クサバガワ 草場川			

※戸数は住家のみ



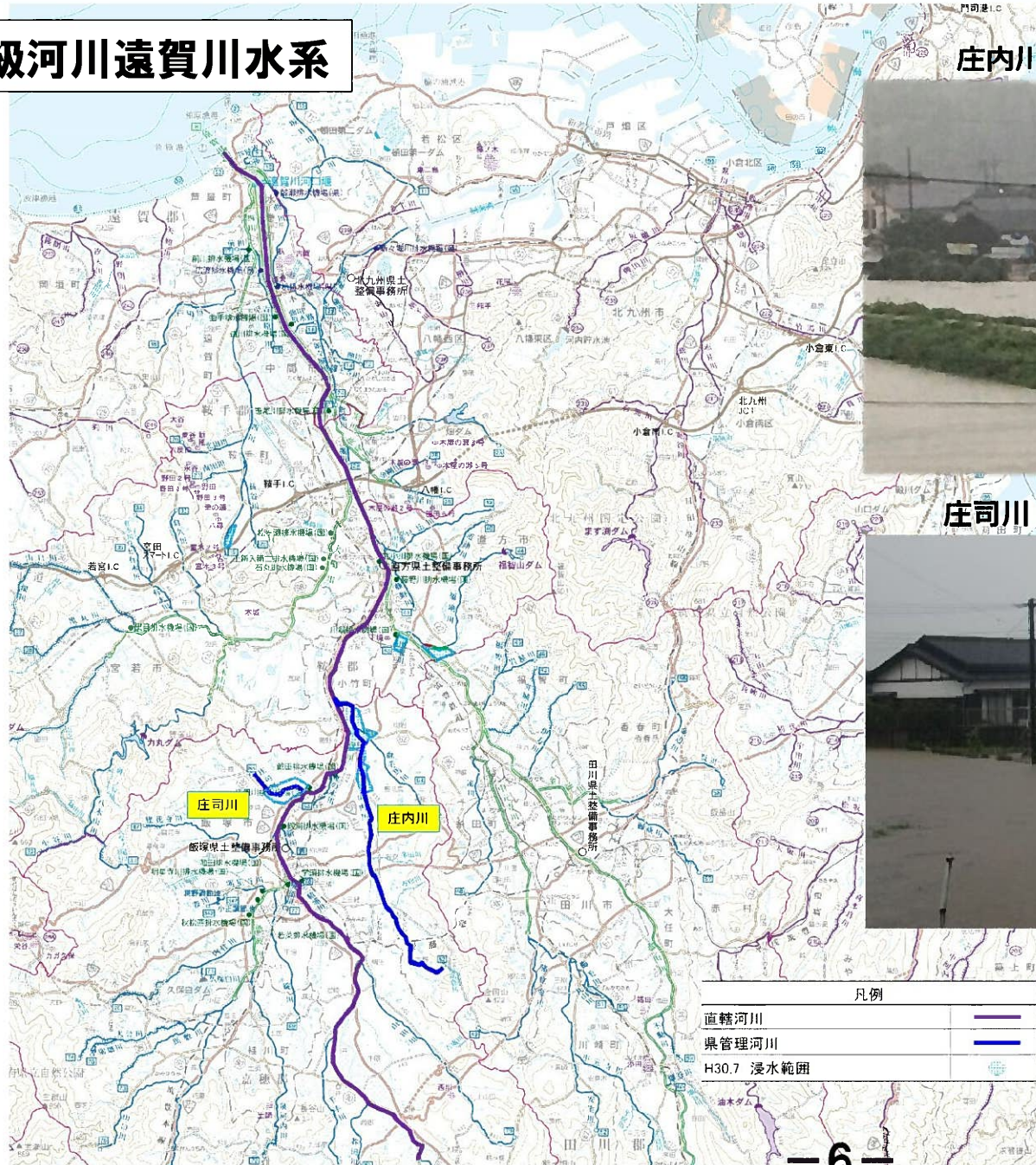
平成30年7月豪雨について【被災状況】

一級河川筑後川水系



平成30年7月豪雨について【被災状況】

一級河川遠賀川水系



庄内川（飯塚市勢田：飯塚市穎田支所付近の浸水状況）



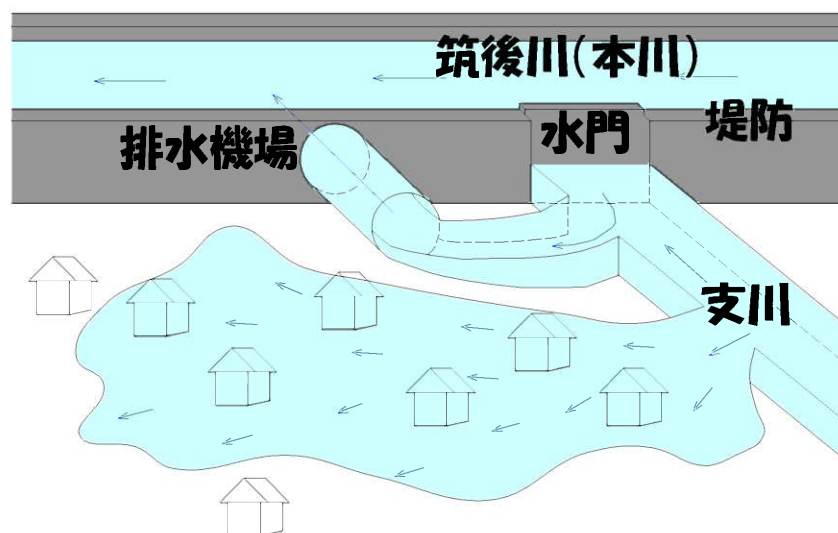
庄司川（飯塚市柳橋：飯塚市終末処理場付近の浸水状況）



2つの主な浸水被害のメカニズム

【流下能力不足】 河道の流下能力を超える流量となったことで、溢水・越水して浸水被害が発生。 ⇒ 庄内川など

【内水河川の氾濫】 豪雨が広範囲で長時間続いたことで、本川の水位が上昇。本川からの逆流による浸水被害を防ぐため、水門を閉鎖。ポンプを稼働。その後も支川の流域で雨が降り続いたことで、ポンプの能力を超える流量が支川に流れ込み、下流部に湛水し支川の水位が上昇、堤防の低い箇所から溢水・越水して浸水被害が発生。 ⇒ 筑後川中流部の支川など



内水河川 … 内水とは、本川水位が高いため自然排水が困難となり、堤内地が湛水する現象をいう。したがって、内水河川とは本川水位が高い場合、自然排水ができずにその流域内に湛水が生じる河川をいう。